

バーチャルリアリティを用いた腹部外傷症例シミュレーター開発に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年4月11日～2028年3月31日

〔研究課題〕 バーチャルリアリティと拡張現実を複合した画像立体視を利用した腹部外傷症例シミュレーターの開発

〔研究目的〕 昨今、各種外科専門領域において、バーチャルリアリティ（VR）技術を用いたコンピュータ外科シミュレーションがすでに開発・実用化されています。これらは、これからの時代の外科教育には欠かせないものとなっていくと思われ、外傷外科の分野も例外ではありません。当研究は、患者様のCTスキャンデータを用いて医師の教育用にバーチャルリアリティ技術を使ったトレーニングシステムを作成することを目的としております。

〔研究意義〕 当シミュレーターの開発により、次世代の外傷外科医育成および、外傷を取り扱う可能性のある全ての外科医の生涯教育に利用することで、腹部外傷患者の救命率改善につながり、外傷診療の質向上に貢献することが期待されます。

〔対象・研究方法〕 倫理委員会審査承認日から2028年3月31日までに当院救命センターに搬入された腹部外傷患者で、入院時にCTを撮影している患者を対象とし株式会社HoloEyesおよび筑波大学バーチャルメディカルシミュレーションリサーチユニットの協力の元、腹腔内臓器および大血管の損傷のVRモデルを作成し、腹部外傷手術の模擬体験を術者がヘッドマウントディスプレイで体感できるシミュレーターを作成します。

〔研究機関名〕

本学、筑波大学バーチャルメディカルシミュレーションリサーチユニット、株式会社HoloEyes

〔個人情報の取り扱い〕

研究実施に係るデータを取扱う際は、患者様の個人情報とは無関係の番号を付して対応表を作成し、匿名化を行い被験者の秘密保護に十分配慮します。対応表はデータ管理責任者が医局内施錠可能な事務机引き出し内に保管します。また、研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：帝京大学医学部救急医学講座 講師 伊藤 香
研究分担者：帝京大学医学部救急医学講座 主任教授 坂本哲也
住所：東京都板橋区加賀 2-1-11 帝京大学医学部附属病院高度救命救急センター
TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 33129]